

「リージョナルハブ」と「グリーンポート」 ～バクー港のキーワード～

経済トピック第10号「広域物流拠点」で紹介しました、バクー国際海洋商業港 (Port of Baku) のジャドフ社長から、改めて同港の将来展望・計画と日本企業への期待について話を伺いました。

1. リージョナルハブ

(1) アラト地区 (バクー市南方70km) に移転した2018年以来、バクー港の貨物取扱量は毎年20%程度着実に伸びています。新型コロナの影響下でも、本年10月迄の貨物取扱量は前年同期比18%増でした。

(2) バクー港の取扱貨物の9割弱が国際トランジット貨物です。東西・南北の物流ルートが交差し、半径 1,000km 圏に 1 億 3 千万人の市場がある地理的特性から、同港の「リージョナルハブ」としての役割が高まりつつあると言えます。

(3) 特に、昨年の第二次カラバフ戦争の停戦合意に盛り込まれた「ザンゲズル回廊」(アゼルバイジャン本土と飛び地ナヒチバンをつなぐアルメニア領内の輸送路) が開通すると、東西ルート (中国・中央アジア～アラト～トルコ・欧州) が現在のジョージア経由よりも近くなること、南北ルート (イラン～アラト～ロシア) が全通することから、バクー港 (アラト) の貨物取扱量の飛躍的拡大が期待されます。

(4) 現在多くの外国企業が、トランジットに際しバクー港の保税倉庫の活用 (流通加工を含む) を検討しています。また近い将来、隣接するアラト自由経済区域 (AFEZ) がオープンすれば (注: 2022 年 7 月第 1 期供用開始予定)、ここを加工・製造拠点として、上述の広域市場へアクセスできます。日本企業にもこの点を積極的に PR していきたいと思います。

2. グリーンポート

(1) バクー港がアラトへ移転・新築された際、アリエフ大統領から同港は「透明、モダン、先進」であるべき旨指示されました。運営主体である我々は国営企業であるものの、民間ビジネス手法を常に追求しており、ターミナル運営の民間委託 (PPP) に向け準備中です。

(2) また、「グリーンポート」として2035年迄の CO2 排出ゼロ実現を表明しており、各種港

湾施設や船舶、トラック等の脱炭素化(電化、水素燃料、LNG)に取り組む方針です。このため、所要のインフラ整備、例えば、再エネ発電所(注:アラトは Masdar による太陽光プロジェクトサイト)、グリーン水素製造・貯蔵設備、充電、LNG・水素充填施設等を含む、全体的な「グリーンポート(脱炭素化)投資計画」のスタディに着手する予定です。

(3)「グリーンポート」の実現に向け、日本企業の知見、技術を導入できれば素晴らしいことであり、関心のある日本企業からのコンタクトをお待ちしています。

[Port of Baku 連絡先]

Mr. Zaur Hasanov, Head of International Relations Dept.

zhasanov@portofbaku.com (URL) [Port Of Baku](#)

(以上)